



Cisco TelePresence FindMe(VCS Express)

導入ガイド

VCS X7.2

D14525.05

2012 年 11 月

内容

概要.....	3
セットアップ FindMe.....	4
FindMe オプション キーのチェック.....	4
クラスタ名のセットアップ.....	4
FindMe 設定の有効化と設定.....	4
ユーザ アカウントおよび FindMe プロファイルの設定.....	6
ユーザ アカウントのログイン認証の設定.....	8
ISDN ゲートウェイ経由でのコールの送信と返し.....	9
FindMe ID に E.164 番号を変換するための FindMe の使用.....	9
FindMe ID に E.164 番号を変換するための ENUM の使用.....	9
発信者 ID に ISDN ゲートウェイ プレフィックスを含める.....	9
その他の情報.....	11
FindMe ID で発信者 ID を上書きする方法の決定.....	11
FindMe(VCS クラスタ内)	11
Microsoft Lync および VCS B2BUA.....	11
FindMe アカウント(ネットワーク内の別の VCS でホスト)	11
FindMe とプレゼンス.....	12
FindMe の個人タイプとグループ タイプ.....	12
SIP URI で許可される文字.....	12
トラブルシューティング.....	13
検索履歴を使用した、FindMe 問題の診断.....	13
既知の制限事項.....	14
FindMe デバイスとしての Microsoft Lync デバイス ID.....	14
参考文献.....	15
マニュアルの変更履歴.....	16

概要

FindMe は、誰かがユーザの FindMe ID をコールしたときにどのエンドポイント(ビデオおよびオーディオのみ)を呼び出すかを指定する機能を提供します。FindMe はまた、いずれかのプライマリ デバイスがビジー状態の場合にコールされるフォールバック デバイスを指定したり、すべてのプライマリ デバイスが応答されない場合にコールされるフォールバック デバイスを指定したりできるようにします。

FindMe の重要な機能は、管理者が、着信側のエンドポイントに表示される発信者 ID を、発信者のエンドポイントの ID ではなく、発信者の FindMe ID に設定できることです。つまり、そのコールが戻されるときには FindMe ID に戻され、元のコールを行った時のエンドポイントだけが呼び出されるのではなく、そのユーザのアクティブな FindMe ロケーションのすべての電話が呼び出されます。

このマニュアルでは、エンドポイントが登録でき、ビデオ コールがエンドポイント間で実行可能なように、Cisco TelePresence Video Communication Server(VCS) が設定されていると見なしています。これは、FindMe を VCS 上でセットアップし、ユーザ アカウントを FindMe プロファイルとともに作成するのに必要な、管理者レベルの設定を指定します。

このガイドは、Cisco TelePresence Management Suite(Cisco TMS) を使用しないシステムの導入にのみ適用されます。Cisco TMS を使用するシステムに FindMe を導入する場合(FindMe アカウントのマス プロビジョニング用) は、『*Cisco TMS Provisioning Extension Deployment Guide*』を参照してください。Cisco TMS を使用しないシステム導入から後で Cisco TMS を使用するシステムに移行する場合、VCS 上で設定された FindMe アカウントはすべて削除され、Cisco TMS が提供するアカウント データで置き換えられます。

個々のユーザが FindMe アカウントを設定する方法の詳細については、『*FindMe Express User Guide*』を参照してください。

セットアップ FindMe

ユーザの FindMe ID と関連付けられたデバイスにコールをルーティングできるように、VCS で FindMe 機能が有効になっている必要があります。

FindMe オプション キーのチェック

Cisco VCS に FindMe オプション キーがインストールされていることを確認します([メンテナンス (Maintenance)] > [オプション キー (Option keys)]) 。インストールされていない場合は、リセラーに問い合わせてキーを取得してください。

クラスタ名のセットアップ

FindMe を使用するときには、クラスタの一部であるかどうかに関係なく、クラスタ名で VCS をセットアップする必要があります。

クラスタ名を設定または変更するには以下を行います。

1. [VCS 設定 (VCS configuration)] > [クラスタリング (Clustering)] に移動します。
2. クラスタ名を入力します。
 - VCS がクラスタの一部である場合は、クラスタのアドレスを指定する SRV レコードで使用されている完全修飾ドメイン名に指定します(「cluster1.example.com」 など) 。
 - VCS がクラスタの一部ではない場合は、Cisco VCS のアドレスを指定する SRV レコードで使用されている完全修飾ドメイン名に指定します(「vcs1.example.com」 など) 。
3. [保存 (Save)] をクリックします。
4. 既存の FindMe データがある場合、新しいクラスタ名を使用するには更新する必要があります。この新しい名前を使用するように FindMe データを更新するには、**transferfindmeaccounts** スクリプトを使用します。これを行うには、『*VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide*』で定義されているプロセスを使用します。

FindMe 設定の有効化と設定

FindMe を VCS 上で有効にし、設定するには以下を行います。

1. [FindMe の設定 (FindMe Configuration)] ページ([アプリケーション (Applications)] > [FindMe] > [設定 (Configuration)]) に移動します。
2. [FindMe モード (FindMe mode)] をオンに設定します。
3. [発信者 ID (Caller ID)] を FindMe ID に設定することを推奨します。次のオプションがあります。
 - [FindMeID] : この VCS 経由で行われているコールの発信者 ID は、関連する FindMe ID に置き換えられます。
 - [着信 ID (Incoming ID)] : 発信者 ID は変わりません。着信側エンドポイントに提供された発信者 ID が、発信したエンドポイントの ID です。発信者 ID と FindMe ID の使用の詳細については、『[FindMe ID で発信者 ID を上書きする方法の決定 \[p. 11\]](#)』を参照してください。
4. ユーザが独自のデバイス(携帯電話の番号など) を FindMe に追加設定できないようにする場合は、[ユーザによるデバイス設定を制限する (Restrict users from configuring their devices)] をオンにします。そうでない場合はオフのままにします。
5. 「モバイルと PSTN 番号には、9 の後にコールするデバイスの電話番号を入力します(たとえば、901344123456 と入力)」などのデバイス作成メッセージを設定します。ユーザが新しいデバイスを追加し、たとえば次の内容を指定するのに役立つ場合、このメッセージが表示されます。
 - VCS がどのようにゲートウェイから PSTN にコールをルーティングできるか
 - エンドポイント ID の形式

6. [保存 (Save)]をクリックします。

下の画面は、FindMe Express のエンドユーザ インターフェイスの使用例を示します。特に、ユーザが FindMe プロファイルに追加する新しいデバイスを指定するときに、デバイス作成メッセージがどのように表示されるかを示します。

ユーザ アカウントおよび FindMe プロファイルの設定

FindMe プロファイルは、ユーザ アカウントで設定されます。ユーザ アカウントはシステム管理者によって、VCS インターフェイスを通じて一度に 1 つずつ手動で設定されます。アカウントが作成された後、個々のユーザはユーザ アカウントにログインし、FindMe プロファイルを管理できます。

VCS でユーザ アカウントを設定するには以下を行います。

1. [ユーザ アカウント (User accounts)] ページに移動します ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)])。
2. [新規 (New)] をクリックします。
3. 次のようにフィールドを設定します。

フィールド名	説明
ユーザ名 (Username)	このユーザ アカウントにログインするためのユーザ名。たとえば、「名前. 姓」とします (ユーザ名は大文字と小文字が区別されず、スペースが含まれることがあります)。LDAP のログイン認証を使用する場合は、ユーザ名が LDAP アクセス可能なデータベース内のユーザ名と正確に一致する必要があります。ローカル データベース認証を使用する場合、このユーザ名はローカル認証データベース内の名前として使用する必要があります。 注：ユーザ名は FindMe ID とは異なっている必要があります。
表示名 (Display Name)	フォーマットの制限のないユーザ名。これはエンドポイントの電話帳に表示されます。 たとえば Name Surname
電話番号 (Phone number)	たとえば ISDN ゲートウェイなどへの発信 H.323 コールで表示される E.164 発信者 ID。(これには数値のみ含める必要があります。スペース、ハイフンまたはブラケットは含めないでください。) 注：コールが ISDN ゲートウェイに送信される可能性がある場合は、この電話番号の形式が ISDN プロバイダーの要件と一致することを確認します。
FindMe ID	FindMe ID は、すべてのエンドポイントでユーザが接続できる固有のエイリアスです。URI、H.323 ID、または E.164 番号を使用できます。 たとえば、「名前. 姓@example.com」とします。 注：FindMe ID は、ユーザ名とは異なっている必要があります (ただし、「ユーザ名@ドメイン」の形式にすることができます)。
プリンシパルデバイスアドレス (Principal device address)	FindMe の最初のデバイスの ID (URI、H.323 ID、またはこのユーザのプライマリ デバイスの E.164 番号として指定)。 注 1：プリンシパル デバイスをユーザが削除することはできません。 注 2：プリンシパル デバイス アドレスは FindMe ID と異なっている必要があります。 プリンシパル デバイスの詳細については、「 FindMe ID で発信者 ID を上書きする方法の決定 [p. 11] 」を参照してください。
初期パスワード (Initial password) **	ユーザ アカウントにログインするためのパスワード。
パスワードの確認 (Confirm password) **	上記で入力したパスワードをもう一度入力します。
FindMe タイプ (FindMe type)	個人またはグループを選択 (「 FindMe の個人タイプとグループ タイプ [p. 12] 」を参照)。

** パスワード エントリは、[ユーザ認証ソース (User authentication source)] が [ローカル (Local)] に設定されている場合にのみ表示されます (「[ユーザ アカウントのログイン認証の設定 \[p. 8\]](#)」を参照) 。[ユーザ認証ソース (User authentication source)] が [リモート (Remote)] に設定されている場合、ログイン パスワードは LDAP 接続データベースによって認証されます。

4. [保存 (Save)]をクリックします。
5. ステップ 2 から 4 を繰り返して、必要なすべてのユーザ アカウントを作成します。

The screenshot shows a web interface for creating a user account. At the top, there are navigation tabs: Status, System, VCS configuration, Applications, and Maintenance. Below the tabs, the page title is 'Create user account' and the breadcrumb trail is 'You are here: Maintenance > Login accounts > User accounts > Create user account'. The form is organized into two main sections: 'User details' and 'FindMe'. Each section contains several input fields with labels and icons. The 'User details' section includes 'Username' (alice), 'Display name' (Alice), and 'Phone number' (01234123456789). The 'FindMe' section includes 'FindMe ID (dialable address)' (alice@example.com), 'Principal device address' (alice.movi@example.com), 'Initial password' (masked with dots), 'Confirm password' (masked with dots), and 'FindMe type' (Individual). At the bottom of the form, there are 'Save' and 'Cancel' buttons.

他の FindMe デバイスを [ユーザ アカウントの編集 (Edit user account)] ページで追加できます。これを行うには、 [デバイスおよびロケーションの設定 (Configure devices and locations)] セクションの [ユーザの編集 (Edit user)] リンクを使います。詳細については、『*FindMe Express User Guide*』を参照してください。

ユーザアカウントのログイン認証の設定

ユーザが FindMe アカウントに(VCS の [ユーザ ログイン(User Login)]画面から) ログインして FindMe プロファイルを設定する際には、そのユーザのパスワードを、VCS に格納されているローカルデータベース、または LDAP アクセス可能なデータベース(Microsoft Active Directory など) に対して認証できます。

ユーザ パスワードの認証方法を設定するには以下を行います。

1. [ログイン アカウント認証設定(Login account authentication configuration)]ページ([メンテナンス(Maintenance)] > [ログイン アカウント(Login accounts)] > [設定(Configuration)]) に移動します。
2. 適切なユーザ認証ソースを選択します。
 - VCS がパスワードをローカルに保存する場合は、[ローカル(Local)]を使用します。ユーザ パスワードは、アカウントが管理者によって作成される時に最初に設定されます。ユーザは、FindMe Express のホーム ページの上部にある [パスワード変更(Change Password)]オプションを選択してパスワードを変更できます。
 - VCS がパスワードを LDAP 経由で外部の資格情報ディレクトリに対して認証する場合は、[リモート(Remote)]を使用します。ユーザは、FindMe Express インターフェイスからパスワードを変更できません。

The screenshot shows the 'Login account authentication configuration' page. At the top, there are navigation tabs: Status, System, VCS configuration, Applications, and Maintenance. Below the tabs, the page title is 'Login account authentication configuration' and the breadcrumb is 'You are here: Maintenance > Login accounts > Configuration'. The main content area is titled 'Configuration' and contains two dropdown menus. The first is 'Administrator authentication source' with a dropdown menu showing 'Local' and an information icon. The second is 'User authentication source' with a dropdown menu showing 'Local' and an information icon. Below the dropdown menus is a 'Save' button.

[リモート(Remote)]認証ソースを使用する前に、LDAP 認証サーバへの接続の詳細を設定する必要があります。『Authenticating VCS Accounts using LDAP Deployment Guide』を参照してください。

ISDN ゲートウェイ経由でのコールの送信と返し

ここでは、ISDN ゲートウェイでルーティングされたコールで FindMe を使用する方法について説明します（携帯電話または他の ISDN アクセス可能な宛先をコールする場合など）。

VCS で、発信者ID（[アプリケーション（Applications）] > [FindMe] > [設定（Configuration）]）が FindMe ID を使用するように設定されている場合、表示される発信者 ID はユーザの E.164 電話番号になります。

着信側がコールを返す（および、E.164 番号をビデオ ネットワークの ISDN ゲートウェイにネットワークによってルーティングする）場合、コールは ISDN ゲートウェイで受信され、E.164 電話番号を着信番号として VCS に転送されます。

VCS はこのため、ユーザのエンドポイントをコールできるように、このコールに関連する FindMe ID にルーティングするように設定される必要があります。これは、FindMe の別のエントリを使用するか、ENUM を設定することによって実行できます。

FindMe ID に E.164 番号を変換するための FindMe の使用

この方法では、URI に E.164 ダイアル番号をリダイレクトするために FindMe の追加アカウントを使用します。

URI スタイルまたは H.323 ID FindMe ID と、関連付けられた E.164 電話番号の両方を持つ各ユーザ用に、次の情報を使って 2 番目のユーザ アカウントを設定します（[メンテナンス（Maintenance）] > [ログイン アカウント（Login accounts）] > [ユーザ アカウント（User accounts）]）。

- ユーザ名（例：123456-name.surname）
- FindMe ID（ユーザの E.164 電話番号に設定）
- プリンシパル デバイス アドレス（メイン アカウントの FindMe ID に設定）

これは静的マッピングであるため、ユーザはこのセカンド（E.164）アカウントにログインする必要はありません。そのユーザに関連付けられたデバイスへの変更は、常にメイン アカウントで行われます。

FindMe ID に E.164 番号を変換するための ENUM の使用

ENUM を使用すると、着信 E.164 番号を ENUM サーバでルックアップでき、コールはその番号と関連付けられた URI に転送されます。

ENUM 変換を使用するためには、FindMe の各アカウントについて DNS サーバの ENUM アドレスとして電話番号を設定し、そのアドレスをそのアカウントの FindMe ID にマッピングする必要があります。

ENUM の設定と実装の詳細については、『*ENUM dialing on VCS Deployment Guide*』で説明されています。

発信者 ID に ISDN ゲートウェイプレフィックスを含める

発信者 ID に ISDN ゲートウェイプレフィックスを含めるように VCS を設定すると、ISDN ゲートウェイ経由で受信された PSTN/ISDN コールを返すことが簡単になります。

ゲートウェイ発信者ID を VCS で設定するには

1. H.323 ページ（[VCS 設定（VCS configuration）] > [プロトコル（Protocol）] > [H.323]）に移動します。
2. 必要に応じて、ゲートウェイの発信者ID を設定します。次のオプションがあります。
 - [プレフィックスを含める（Include prefix）]：受信の電話機に表示される発信者 ID が、ISDN ゲートウェイのプレフィックスによってプレフィックスが付けられた発信者の電話番号です。これにより、受信者が番号を選択し、折り返し電話を押すと、直接コールを返すことができます（このプ

レフィックスのコールを ISDN ゲートウェイにルーティングすることを許可するように、適切な検索ルールが設定されている場合)。これは推奨オプションです。

- [プレフィックスを除外する (Exclude prefix)]: 受信の電話機に表示される発信者 ID は、発信者の電話番号です。 コールを返すには、番号をリダイヤルするか、ゲートウェイ プレフィックスを使用して番号のプレフィックスを編集して、ゲートウェイ経由でコールを電話ネットワークにルーティングできるようにします。

VCS が E164 H.323 コールと相互作用する場合、その相互作用を行った VCS の IP アドレスに設定されたドメインで、発信者 ID を作成します。これらのコールのルーティングを処理するには、適切な検索ルールを作成する必要があります。作成しないと、**number@IPofVCS** から **number@LocalSipDomain** への変換が行われます。

その他の情報

FindMe ID で発信者 ID を上書きする方法の決定

VCS は次の場合にのみ、発信者 ID を FindMe ID で上書きすることができます。

- コール シグナリングが、FindMe アカウントをホストする VCS (または VCS クラスタ) を通過する場合。
- VCS が、エンドポイントの発信者 ID のオーナーとして FindMe を識別できる場合。これは、着信コールで提供された発信者 ID が次のいずれかに一致する場合に可能です。
 - FindMe の 1 つのアカウントだけで見つかる FindMe デバイス
 - 単一のプリンシパル FindMe デバイス (同じデバイス アドレスが FindMe の複数のロケーションに関連付けられている場合)

いずれかの条件が満たされていない場合、着信コールの発信者 ID は未変更で渡されます。

プリンシパル デバイス

プリンシパル デバイスは、それを所有するユーザの主要なデバイスになるように設計されています。

- デバイスは、FindMe のアカウントが作成されたときに最初に設定されたデバイスである場合に、プリンシパル デバイスとして識別されます。
- ユーザは、自分のアカウントからプリンシパル デバイスを削除できません。管理者は、デバイスがプリンシパル デバイスであるかどうかを、[プリンシパル デバイスの編集 (Edit principal devices)] ページ ([メンテナンス (Maintenance)] > [ログイン アカウント (Login accounts)] > [ユーザ アカウント (User accounts)]) を選択し、アカウントを選択してから [プリンシパル デバイスの編集 (Edit principal devices)] を選択) で変更できます。

FindMe (VCS クラスタ内)

FindMe を VCS クラスタで使用する場合、FindMe オプション キーがクラスタ内のすべての VCS ピアで有効になっている必要があります。FindMe データベースは、コールが経由するすべてのピア上で FindMe 機能が実行できるように、クラスタ内のすべてのピアに渡って複製されます。

VCS クラスタの詳細については、『*VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide*』を参照してください。

Microsoft Lync および VCS B2BUA

FindMe が、「Lync ゲートウェイ」VCS と一緒に使用される場合、クラスタ内の各ピアが FindMe ユーザの一部を Microsoft Lync に登録して、コール ロードがクラスタ ピア間で共有されるようにします (Lync から VCS へのコールは、ユーザを登録した VCS に Lync によって送信されます)。

詳細については、『*Microsoft Lync 2010 and VCS Deployment Guide*』を参照してください。

FindMe アカウント (ネットワーク内の別の VCS でホスト)

FindMe アカウントは複数の VCS (または VCS クラスタ) に渡って分散できますが、個々のアカウントは 1 つの VCS (または VCS クラスタ) でのみホストできます。

FindMe が発信者の FindMe ID で発信者 ID を上書きするには、コール シグナリングが、関連するアカウントをホストする VCS (または VCS クラスタ) を通過する必要があります。

したがって、発信者 ID を常に上書きできるように、システム トポロジの設計に注意する必要があります。

たとえば、2 人のユーザが VCS Control にアカウントを持っているが、両方のユーザが (VCS Control にトラバーサルゾーンを持つ) VCS Expressway に登録されているエンドポイントで自宅勤務している場合があります。

- 1 人のユーザが他のユーザの FindMe ID を呼び出すと、それらのユーザの発信者 ID がそれらのユーザの FindMe ID で上書きされます。これは、コール シグナリングが、ユーザ アカウントがホストされている VCS Control を通過するためです。
- 1 人の発信者が他のユーザのエンドポイント URI を直接コールすると、コール シグナリングは VCS Control ではなく VCS Expressway を通過します。このシナリオでは、発信者 ID は FindMe ID で上書きされません。これは、シグナリングが VCS Control を通過しないためです (ユーザが個々のデバイス URI ではなく FindMe ID をコールすることが推奨されます)。

FindMe とプレゼンス

VCS は、ユーザの現在アクティブな FindMe ロケーションに関連付けられた各デバイスのプレゼンスを集約します。しかし、集約できるのは、関連する FindMe アカウントをホストする同じ VCS (または VCS クラスタ) に置かれた Presence サーバによって管理されているデバイスに対してだけです。

そのため、FindMe アカウントの管理に使用すると同じ VCS (または VCS クラスタ) 上で Presence サーバを有効にすることを推奨します。

FindMe の個人タイプとグループタイプ

FindMe の各プロフィールは、個人またはグループに設定されます。

個人 (Individual)

個人モードでは、個々のユーザが一度に 1 台のデバイスでのみコールを受信できると想定します。

- 現在アクティブなロケーションにあるデバイスがビジー状態の場合、この FindMe ID へのコールは、すぐにオンビジー デバイスに転送されます。
- 現在アクティブなロケーションにあるどのデバイスもビジー状態でない場合、指定された呼び出し時間の後、コールは未応答デバイスにルーティングされます。

グループ

グループモードでは、複数のユーザがこの FindMe にコールを受信できると想定します。

- 現在アクティブなロケーションにあるデバイスがビジー状態でない場合、ノンビジー デバイスが呼び出されます。現在アクティブなロケーションにあるすべてのデバイスがビジー状態の場合にのみ、コールはすぐにオンビジー デバイスに転送されます。
- 現在アクティブなロケーションにあるデバイスがビジー状態でない場合、指定された呼び出し期間の後、FindMe はコールを以下にルーティングします。
 - 現在アクティブなロケーションのデバイスがビジー状態の場合はオンビジー デバイス
 - 現在アクティブなロケーションのデバイスのすべてがビジー状態でない場合は未応答デバイス

SIP URI で許可される文字

次の文字セットが SIP URI で使用できます (詳細については、RFC 3261 で参照できます)。

a-z、A-Z、0-9、「-」、「_」、「.」、「!」、「~」、「*」、「'」、「(」、「)」、「&」、「=」、「+」、「\$」、「,」、「;」、「?」、「/」

その他の文字が必要な場合は、必須の文字の ASCII 値を表す 2 桁の 16 進数の前に「%」を使用して「エスケープ」する必要があります。

たとえば、「alice smith@example.com」は「alice%20smith@example.com」としてエンコードする必要があります (「%20」は空白文字を表します)。

トラブルシューティング

検索履歴を使用した、FindMe 問題の診断

FindMe 関連の問題の診断を開始するのに最適な場所は、通常、検索履歴(関連するユーザ アカウントをホストする、VCS または VCS クラスタの検索履歴) です。

検索履歴には、FindMe ID の検索と、ユーザ ポリシーが現在アクティブな場所にあるすべてのデバイスを確認するためにコールをどのように分岐するかが示されます。各デバイスの検索の結果も表示されます。

既知の制限事項

FindMe デバイスとしての Microsoft Lync デバイス ID

コールを行うときにデバイスの独自のエンドポイント ID ではなく FindMe ID が発信者 ID として示されるように、発信者ID([アプリケーション(Applications)] > [FindMe] >[設定(Configuration)]) がFindMe ID を使用するように設定されている場合、Lync デバイス ID をその FindMe のデバイスとして含めることはできません (Lync は、VCS が発信者 ID を FindMe ID として示す設定方法である、応答メッセージでの宛先名や送信者名の変更をサポートしません) 。

ビデオ エンドポイントと Lync デバイスを関連付けるには、VCS の B2BUA for OCS/Lync デバイスを有効にし、FindMe ID を Lync URI と同じにする必要があります。

VCS と Lync の設定の詳細については、『*Microsoft Lync 2010 and VCS Deployment Guide*』を参照してください。

参考文献

タイトル	参照	リンク
VCS Administrator Guide	D14049	www.cisco.com
FindMe Express User Guide	D14088	www.cisco.com
Microsoft OCS 2007, Lync 2010 and VCS Deployment Guide	D14269	www.cisco.com
VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide	D14367	www.cisco.com
Cisco TMS Provisioning Extension Deployment Guide	D14368	www.cisco.com
Authenticating VCS Accounts using LDAP Deployment Guide	D14526	www.cisco.com
ENUM dialing on VCS Deployment Guide	D14465	www.cisco.com

マニュアルの変更履歴

次の変更履歴表は、このマニュアルにおける変更内容の概要をまとめたものです。

リビジョン	Date	説明
1	2010 年 3 月	初版。
2	2010 年 10 月	新しいドキュメント スタイルを適用。
3	2011 年 2 月	VCS X6 に関する記述を更新
4	2012 年 3 月	VCS X7.1 に関する記述を更新
5	2012 年 11 月	VCS X7.2 に関する記述を更新

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.